

## 成果報告書（学会発表）

2018年9月23日

政策メディア研究科1年 石井大智

（申請当時：総合政策学部4年）

### 1. 基本情報

学会名：5th International Conference of the Romanian Sociological Society  
hosted by the West University of Timișoara “Living in a Liquid Society”  
(Timisoara, Romania)

学会のホームページ：<http://conf2018.societateasociologilor.ro/>

学会の期間：2018年9月14日～2018年9月15日

発表内容：Research on The Organizations Dominated by International  
Students as Solution for Some Problems Caused by Internationalization of  
Universities

### 2. 今回の学会と発表について

今回参加した学会はヨーロッパで最大の社会学の学会の一つであり、今年で5回目の開催。ISA(国際社会学会)に加盟していることもあってヨーロッパ全体から参加者・スピーカーがやってくる。ルーマニアの学会ではあるが国際色が強く、ホームページを始め学会の案内は全て英語で行われ、発表も全て英語で行われている。今年度のテーマは Liquid in Society であり、様々な側面から「流動化/液体化」する社会を捉えていく姿勢を示している。

申請者はこの学会において国際学生が主体となった学生組織についての研究発表を行った。非英語圏の英語コースの学生に代表されるように、国際学生として様々な背景を持った学生が英語圏に限らず増加している。彼らは自然にはアイデンティティを共有せず、内発的に結合する必然性はない。しかし国際学生、現地学生、大学のいずれにとっても統合した組織がないことは、国際学生の代 機関がなく、彼らの主張を統合し、権利を守る上で著しい問題を発生させる。本研究発表ではこのような国際学生が主体となった学生組織が、大学の国際化による問題を国際学生の代表として解決する要請により設立されていることを示した。

今年も 17 の部会が用意されており、発表者はアブストラクトによる審査で選ばれる。申請者が参加するのは「THE HYBRID UNIVERSITY IN TODAY'S LIQUID SOCIETY」という部会である。

### 3. 発表と学会参加の成果

筆者にとって最も大きな研究課題は筆者の視点が東アジアとその周辺に偏っていることである。これは日本やアジアの学会で出会う研究者の多くが日本をはじめとするアジアの高等教育について扱っている人であるということも関係しており、今回の学会では高等教育の英語化についてヨーロッパの研究者と多く議論することができ異なる視点を持つことができた。EU 圏は進学のための国境を超えた移動が容易なためそもそも留学の捉え方が根本から日本と異なり、自身の今後の研究にどう欧州の視点を取り入れていくべきか考えさせられた。また欧州の国々は周囲の国家に対して陸続きのことも多く高等教育が他国のシステムの影響を受けやすく、現代的問題に焦点を当てた日本とは対比的に歴史的検証を行った研究もいくつかあり新鮮だった。今後は欧州の高等教育研究も踏まえ、東アジアの国際化をより相対化して分析できればと思う。

自身の研究発表についてはそもそも東アジアの大学の国際化の現状について一から説明しなければならず、そのことに時間を取られたが、この行為が自身の研究の土台となる知識・レファレンスの確認に役立ったと思う。質問も東アジアの大学の国際化の基本的な情報についてのものが多く、異なる背景を持った研究者にいかに関心分野の前提条件を示すのかが今後の課題であることを認識した。